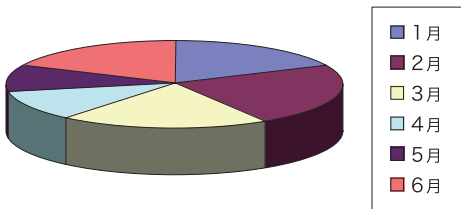
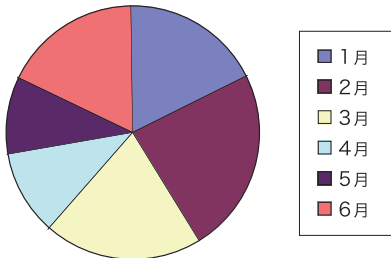


1 あなたはどちら？

二つのグラフがあります。レポートを作成するとき、あなたはどちらを使いたいですか。最近、下のグラフが多用されています。円柱のグラフを鳥になって斜め上空から見ている感じですね。手書きの時代では考えられません。コンピュータ・グラフィックスの進歩とともに、このようなグラフが増えました。しかし、円柱の高さに情報価値はありません。扇形の面積、つまり円を分割している角度が大切な情報です。とするならば、昔から使っている上の円グラフで十分です。情報伝達には見栄えも要求されますが、正しく情報が伝わらなければ何の意味もありません。



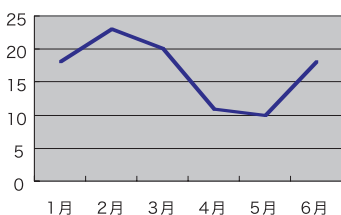
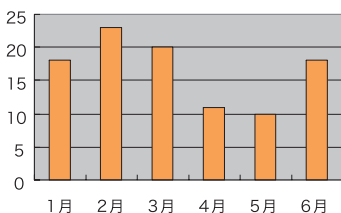
1月	2月	3月	4月	5月	6月
18	23	20	11	10	18

2 なぜグラフ？

ところで、なぜグラフを書くのでしょうか。数値を並べただけでもよいのではないのでしょうか。しかし、グラフの下に示した表を見ただけで、グラフと同じ情報が得られるのでしょうか。なかなか難しいですね。人間のパターン認識能力の素晴らしさを活用して、情報を視覚的に表現したものがグラフです。

3 どんなグラフ？

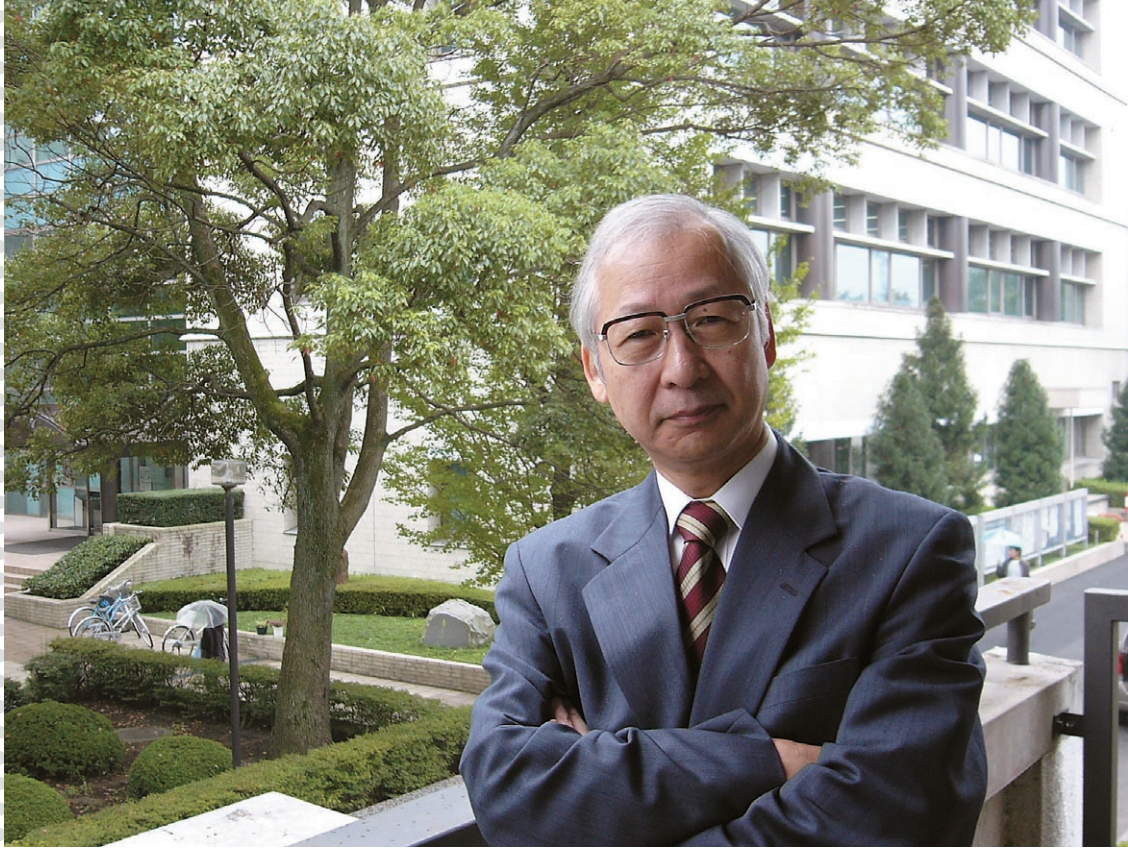
今日、コンピュータの表計算ソフトを利用すれば、数値データを簡単にグラフ化することができます。しかし、同じ数値データをどのように見るのかによって、作成すべきグラフは異なります。円グラフは内訳の割合を見る時に利用します。数量の大きさを比較したい時は棒グラフ等を、数量の変化の状態を見たい時は折れ線グラフ等を描きます。これらのグラフについても、最近は三次元表現が多用されていますが、積極的にはお勧めしたくありません。情報の表現において、見栄え以上に正確性、理解の容易性が重要だからです。



4 情報デザイン

インターネットの拡大やコンピュータによるプレゼンテーションの普及とともに、情報デザインという言葉が注目されています。一般的に、情報をデザインすることと理解されているようですが、正しくは情報の表現・表記をデザインするのであって、情報はデザインできません。

情報表記を美的観点からデザインすることのみが情報デザインではありません。より重要なことは情報を整理し、提示し、コミュニケーションを促進するためのデザインです。



HIROMICHI ISHIKAWA

経済学部教授。
1947年生まれ。埼玉県出身。
早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位取得。
『経営情報システム論』『経営科学』『マーケティング・リサーチ』担当。
『情報活用空間の探求』『経営情報の共有と活用』『経営情報の活用モデル』(中央経済社)が経営情報システム研究3部作。趣味の領域では『落語と情報学』(青蛙房)を著している。

5 コミュニケーションとは

皆さんは、コミュニケーションという言葉をどのように理解していますか。誰かと情報を交換することと考えていませんか。では、何のために情報のやり取りをするのですか。それは、情報を共有するためですよね。コミュニケーションに対して、手段としての情報伝達という理解が多いようですが、目的としての情報共有という認識を持つことが大切です。そうすれば、お互いに情報共有できるよう、情報を整理し、表現し、伝達することに注意が向けられると思います。

コミュニケーションの意味を理解すれば、グラフの作成一つをとっても、正確さ、理解の容易さに注意が向けられ、その後に見栄えを考えることができるでしょう。

6 情報とパソコン

大学生にとって、パソコンの活用は当たり前になりました。インターネットを活用しての情報収集や情報伝達。表計算ソフトによるデータの整理や分析。プレゼンテーション・ツールを活用した講義や報告。

ここでは、グラフを例に表計算ソフトやプレゼンテーション・ツールの利用における、ちょっとした注意を述べてみました。

原研哉(『デザインのデザイン』岩波書店、2003)は情報の質を高めることでコミュニケーションに効率が生まれ、感動が発生すると述べ、「情報の美」を提言しています。そして、情報の美へは、「分かりやすさ」、「独創性」、「笑い」のアクセス・ルートがあると述べています。皆さんもコンピュータの操作だけではなく、情報について考えてみませんか。

